

ふりかえり段階

	重要ポイント	Check!
1	協働することで、単独で行うのに比べてどのような効果が得られたか、話し合って共有すること。	
2	受益者が満足を得られたかどうかについて、話し合って確認すること。	
3	これまでをふりかえって、お互いの考えに相違点がなかったかについて話し合い、確認すること。	
4	事業の成果・課題やふりかえりの内容を、ホームページや会報等を使って市民に発信すること。	



2 受益者の視点に立つことは欠かせない。受益者は多数の市民であったり、限られた少数の市民であったりする。受益者がだれであるかについて双方の認識にズレが生じている場合があるので、しっかりと確認することが必要じゃ。

全体を通して

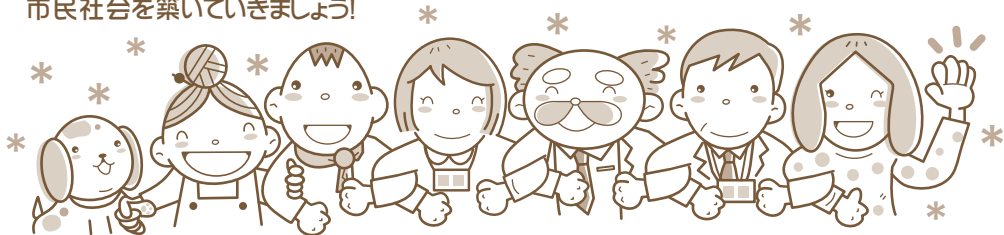
協働事業では、双方が持つ専門知識やノウハウを互いに活用したり学んだりすることができる。蓄積したノウハウは、将来にわたる宝物になるぞ！

関連機関、参加した市民、組織の他のメンバーなど、協働に関わった人たちみんなの関係をさらに深めよう！そして協働で広がったネットワークをもっと広げていこう！

協働を楽しもう！お互いの信頼関係を深めるための交流の場を持とう！事業の成果を上げることだけが協働ではない。喜びや悩み、達成感を分かち合う。それが協働のだいご味じゃ！

★協働を深め、よりよい社会へ！★

たくさんの人々の間に「協働スピリット」を広め、それぞれの成長を支え合い、みんなで豊かな市民社会を築いていきましょう！



編集：平成20年度横浜市協働事業検証推進会議（事務局：横浜市民活力推進局協働推進課）
〒231-0017 横浜市中区港町1-1 電話045-671-3625 ファクス045-664-0734
Eメール：sh-collabo@city.yokohama.jp
平成21年3月発行 横浜市広報印刷物登録 第200484号 類別・分類C-DB060

市民と行政の

よりよい協働のための

チェックシート



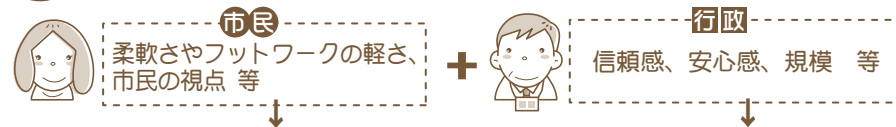
協働ってどんなこと？

ここでいう協働とは、「市民と行政が、課題の解決に向けて、お互いの利点を活かして、より良い効果を生み出す」ことです。

※このチェックシートの「協働事業」は、委託事業や助成金事業だけではなく、市民と行政が協力して行う取組や活動なども含まれます。

協働によってどんな相乗効果が期待できるの？

お互いの特性や得意分野を活かすことで、アイデアが豊富になったり、事業が円滑にすすみやすくなります！



スピーディーな事業展開、きめ細かな対応+事業の信頼性アップ！

お互いのネットワークを活用して、幅広い事業展開ができます！



利用者・参加者の増+事業協力者の増+効果的PRが可能に！

事業名：

「チェックシート」のつかいかた

- まず、全体を見渡して、協働をすすめる際のポイントを大きくつかめます。
- 事業の計画づくりを始めるときには「計画段階」、いよいよ事業を始める際には「実施段階」、事業終了前には「ふりかえり段階」の項目を確認します。その後、折りに触れて、「チェックシート」を見直してください。
- それぞれの段階で必要なことができていたかをチェックし、双方で話し合しましょう。できなかったことは改善策を考え、次回に活かしましょう。

計画段階

	重要ポイント	Check!
1	自分たちが達成すべき大きな目的やミッションについてよく話し合うこと。	
2	お互いの立場や組織の違いを話し合ってよく理解すること。	
3	ニーズを把握して共有するとともに、この事業の目標と実施方法を話し合って決めること。	
4	実現のためにそれぞれが何をできるかを考え、話し合って役割分担を決めること。	
5	会計のルール等、お互いの組織内部の取り決めについて、説明し合ってよく理解すること。	
6	事業を始めることや計画中であることを、ホームページや会報等を使って市民に発信すること。	

1・4 こうすることで、ただ与えられた役割をこなすのではなく、お互いに何ができるかを積極的に考えることができるようになるんじゃ。



5 例えば、行政が団体に助成金を支出する場合、事業終了後の報告時に精算や支出を証明する書類等の提出が必要じゃ。また、団体によっては、重要事項の意思決定を理事会で行うことがあり、時間を要する場合もあるぞ。

6 協働事業は市民に開かれていて、だれでも参加できることが重要じゃ。また、公開することで、協力者が得られたり、情報が集まってきたりなどのメリットもある。公開を難しく考えずに、できることからやってみよう。

実施段階

	重要ポイント	Check!
1	率直な意見交換のもと、お互いに対等な立場で事業をすすめること。	
2	お互いの強みや得意分野をどう活かし合えるかを考え、提案しながら取り組むこと。	
3	相手に任せきりにせず、お互いが役割を自覚して積極的に取り組むこと。	
4	事業の進捗に応じて、目標、ニーズ、対象、実施方法などをふりかえり、修正しながら取り組むこと。	
5	必要に応じ、関連する他の部署や団体などを巻き込みながら事業をすすめること。	
6	事業終了後の見通しについて、話し合いながら取り組むこと。	
7	事業の進捗状況を、ホームページや会報等を使って市民に発信すること。	



4 事業を始めてから必要な情報を収集していくことで、ニーズや対象が明確になることがあるぞ。それを現場の担当者だけでなく、組織として情報を共有することが肝心じゃ。そして状況に応じて、最初の計画に固執せず、柔軟に対応していくことが大切なんじゃ。

また、既存の制度やシステムによって困難が生じている場合、お互いの工夫や努力で克服できないか、一緒に検討することも大切じゃよ。

5 地域の様々な活動主体や関係機関など、市民・行政それぞれが持つネットワークをつなげることが、事業の質を高めるために欠かせない。関係部署や団体による定期的な話し合いの場をつくることも有効じゃよ。

6 事業終了後のことは、終了してから考えるのでは遅い！実施段階から話し合っておくんじゃよ！！

